

令和3年4月10日

愛知県上海産業情報センター
林 秀 幸

一般調査報告書
中国における新型コロナワクチンの接種状況



4月3日、上海市長寧区で始まった外国人向けのワクチン接種（出典：長寧区政府）

4月4日は中国の清明節でした。清明節は二十四節気のうち、春分の日から15日後にあたる日で、春の訪れを告げる節季ですが、中国ではこの日に先祖のお墓参りをする風習があります。昨年の清明節では新型コロナで亡くなった人々を追悼する式典が全国で実施され、哀悼ムード一色の清明節でした。今年は、2月の春節の時期に新型コロナの第2波が到来し、故郷への帰省を予定していた人々に大幅な移動制限がかけられたこともあり、清明節を挟んだ3連休には、一斉に多くの人々が故郷に帰省しました。

そうした中、世界では依然として新型コロナの流行が収まらず、長い戦いが続いており、中国でも諸外国と同様にワクチンの接種が人々の大きな関心事となっています。

今回は、中国の最新のワクチン接種に関する状況について報告します。

外国人を対象に拡大

ワクチンの接種は、これまで医療従事者や輸入検疫担当者、交通関連従事者

などを中心に実施されてきましたが、春節明け以降は順次一般の中国人も対象に接種が行われるようになりました。上海でも会社単位、ビル単位といった形での接種も行われ、18歳以上75歳以下の一般人はワクチンの接種が可能となりました。

3月26日には、北京市でワクチン接種の対象が在住外国人に拡大され、29日には上海市でも外国人を対象としたワクチン接種の予約が始まりました。

現在、中国では中国医薬集団(シノファーム)の不活化ワクチン2種類と、科興生物(シノバック)の不活化ワクチン1種類が供給されています。上海市では、3月末の時点で1日当たり40万回の接種能力を確保しているということで、これまでに少なくとも1回以上の接種を受けた人は245万人以上、副反応が疑われる症状の報告は少なく、ワクチン成分に対するアレルギー反応が大半を占めるといいます。

ただ、外国人の接種が開始されても接種に対する意欲やワクチンへの信頼の度合いは出身国によっても違うと言われており、その反応は様々です。日本人駐在員の多くは「まだ様子見」といった姿勢ですが、外国人向けの予約は人気のように、4月10日の段階で、4月はすでに予約がとれない、といった話も聞かれます。

ワクチンの接種は、中国人の場合は予約なしでも接種会場に行けば接種を受けられるようですが、外国人は完全予約制です。上海では外国人向けの「健康クラウド」アプリを使ってオンラインで予約が可能になっています。右図のようなQRコードをスキャンし個人情報を入力して予約する仕組みです。中国の社会保障医療保険に加入している外国人は中国人と同様に無料で受けられますが、未加入の外国人は1回100元(約1,600円)の費用がかかります。



健康クラウドの QR コード

打ってもかかる？

3月19日、陝西省西安市において、国内で約1か月ぶりとなる新規感染者の発生が報告されました。ところが、この感染者が既に2回の新型コロナワクチン接種を終えていたことが分かり、国内に衝撃が走りました。この感染者は、西安市内の新型コロナ指定病院の検査科で働く女性職員で、病院内の隔離地域で患者のPCR検査などを担当していました。国内で新型コロナのワクチン接種が進む中、その効果に疑問を持つ意見もささやかれていた時期のニュースだけに、一定のインパクトがありました。しかし、当局の専門家の見解として、「ワクチンによる感染防除は100%ではない」といった意見が速やかに示され、国民に冷静な対応が呼びかけられたため、大きな騒動にはなりませんでした。

結果的に、こうした事例をきっかけに、ワクチン接種が全てを解決する万能

の答えではないことが一般に認知されることにもなり、今後は「ワクチン接種とマスクの着用」が防疫対策の重要な手段になる、といったアナウンスがなされるようになりました。

日本人駐在員のジレンマ

日本では新型コロナの予防接種を打ちたくても打てないが、中国では予防接種の必要を感じないほどに流行が沈静化しているが打ちたければ打てる、といった状況があり、現地の日本人駐在員はある種のジレンマを感じているといった話も聞きます。

駐在員が困惑する一番の理由は安全性の問題です。現在中国で流通しているワクチンは全て不活化ワクチンとされており、従来からある開発方法によって作られたワクチンで安全性についてはインフルエンザワクチンと大差ない、といった報道もされています。ただ、有効性や副作用に関する詳細な発表があるわけではないことから、安全性を疑問視する意見もあります。

ただ、その一方で、国内の一般の中国人のワクチン接種への意欲は日ごとに高まっているのを感じます。政府も国民にワクチン接種を促す呼びかけを強化しており、4月には北京市や深圳市ではワクチンの接種がバスの中で行える

「コロナワクチンバス」が登場しました。バスの乗車口には顔認証と検温が同時にできる装置が設置され、ワクチンを保管するための専用の保冷ボックスを備えているほか、5GのWiFiも搭載され、接種者のデータを瞬時に送信できるシステムも備えているといえます。

3月8日の時点で、中国政府は、2022年の半ばには中国の全人口の7～8割がワクチン接種を終えると言っていましたが、4月8日には中国のワクチン業界団体が、中国人の7割近くが年末までに新型コロナウイルスワクチンの接種を終えるとの見解を示しました。国内の接種ペースは確実に加速しているようです。

接種のメリットは？

ワクチン接種にジレンマを感じている日本人駐在員の多くにとって、更に悩ましいのは、単に安全性の問題だけでなく、接種することによって得られるメリットを計りかねているといった問題があります。

3月15日、在日中国大使館は、中国製の新型コロナウイルスワクチンを接種した人に対する訪中ビザ要件の緩和を発表しました。これは、中国製ワクチンを接種した予防接種証明書を提示すれば、新型コロナ発生以前の要件と同じ条件で入国ビザの申請が可能になるというものです。現状、中国の入国には中国の地方政府の発行する招聘状の取得やビザセンターでの厳格な審査を受ける必要がありますが、こうした要件を一部緩和するという内容です。ただし、入国後の14日間の隔離措置や渡航前の核酸検査と抗体検査のダブル陰性証明の提出は依然として必要です。また、現時点では、日本国内において中国製ワクチン

を接種することはできないため、この措置を実際に適用できるケースはごく少ないと考えられます。

しかしながら、こうした発表は、中国製ワクチンを接種することによる何らかのメリットが今後も強化されていく兆候ではないか、といった憶測を呼んでいます。

現在、中国政府は、いわゆるワクチンパスポートと呼ばれる「国際旅行健康証明」の適用を世界に呼びかけています。現在公表されているものは、中国のWeChat(微信)のミニプログラムで3月8日からオンライン化されています。申請者はスマホ上でPCR検査や抗体検査の結果やワクチンの接種状況を証明書として作成することができ、証明書は電子版と紙版の両方を作成できます。中国政府はこれを、世界経済の回復及び国境を越えた人的往来の利便化の推進に対して有効な手段であるとして提唱しています。



国際旅行健康証明(電子版)



国際旅行健康証明(紙版)

こうした、国を越境する場合の通行証としての役割のほか、今後はワクチンの接種記録が国内の移動パスポートとして活用される動きも出てきています。3月23日、国家衛生健康管理委員会は、現在、中国内で地域ごとに異なる健康コードを全国で統一させ、PCR検査、ワクチン接種、中・高リスク地域への訪問の有無に関する情報を自動的に集約すると表明しています。

中国の健康コードは、国内移動や施設の出入りの際に個人の感染リスク有無をスマホを使ってQRコードの形で提示する仕組みとなっており、国内で生活する上で欠かすことのできない重要なツールの一つです。仮に、このコードでワクチン接種の有無を表示することになると、国内移動の際にワクチン接種の有無が個人の行動に対する何らかの制約条件となるのではないかと現地の駐在員の間で不安視されています。

最終的には自己責任？

3月28日、中国では国内のワクチン接種回数が1億回を超えたと報じられました。日本人駐在員のジレンマは日毎に増していく感がありますが、最終的には、リスクとメリットを天秤にかけた上での自己責任ということになるのかも知れません。現地の報道では、科興生物(シノバック)製ワクチンの最終治験の暫定データでは、インドネシアで有効性が65.3%、ブラジルで50.4%だったと伝えられています。錯綜する様々な情報をどう咀嚼し、どう受け止めるのか、各

自の判断が問われるところです。引き続き現地の状況を注視したいと思います。

参考：最近の中国内の主な動き

2021年

- 3月11日 ・中国自動車工業協会は、2月の中国の新車販売台数が前年同月比364.8%増の145万5,000台と発表
 - ・北京の在中国日本大使館で東日本大震災10年の追悼式典開催
- 3月12日 ・北京市は、新型コロナの「低リスク」地域から同市に来る人に対し、16日午前0時以降はPCR検査の陰性証明を求めないと発表
 - ・中国文化観光省は、劇場やネットカフェ、娯楽施設の入場制限を緩和すると発表
- 3月15日 ・中国国家衛生健康委員会は、新型コロナワクチンの接種を受けた人が14日までに累計6,498万人になったと発表
 - ・在日中国大使館は、中国製の新型コロナワクチンを接種した人に対する訪中ビザの発給要件の緩和を発表
 - ・中国中央气象台は、中国北部を中心に砂嵐警報を発令。過去10年で最大規模の黄砂が発生
- 3月17日 ・日本政府観光局(JNTO)は、2月に日本を訪れた中国人旅行客数は推計1,700人と発表
- 3月18日 ・陝西省西安市で、病院関係者1名がワクチン接種後に新型コロナに感染
- 3月23日 ・北京で外国人記者とその家族に中国製の新型コロナワクチンの接種を希望者に実施
- 3月26日 ・北京市は、新型コロナワクチンの接種対象を外国人に拡大
- 3月28日 ・中国で新型コロナワクチンの接種回数が27日までに1億回を突破
- 3月29日 ・上海市は、新型コロナワクチンの接種対象を外国人に拡大
- 4月2日 ・江蘇省は、外国人の新型コロナワクチンの接種予約受付を開始
- 4月6日 ・トヨタ自動車は、3月の中国の新車販売台数が前年同月比63.7%増の16万6,600台と発表

中国の国内感染状況：累計感染者数90,410人（4月10日現在）

累計死者数4,636人（〃）

※ 感染者数の数値は、中国国家衛生健康委員会の各日24時現在の公表データによる。なお、「国内」には香港、マカオ、台湾は含まない。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。